

# 秋建時報

<http://www.a-kenkyo.or.jp>

秋建時報

平成23年10月1日(第1209号)



発行／(社)秋田県建設業協会

秋田市山王四丁目3番10号

TEL 018(823)5495

FAX 018(865)2306



「森の兄弟」 絵／文 白澤 恵舟

## 第4回理事会を開催

### 今後の事業運営等を協議

秋田県建設業協会(村岡淑郎会長)は9月21日、秋田ビューホテルを会場に第4回理事会を開催した。

議事では報告事項として秋田県からの

受託事業である復興支援建設産業サポート事業の進捗状況と、9月理事会以前に開催された常置委員会の報告がそれぞれの委員長から行われた。

続いて、▽東北建設業協会ブロック会議

(今年10月本県開催)▽一般社団法人への移行認可申請▽秋田県への要望(案)の3項目について協議が行われ、各項目については原案通り承認・決定し、事業運営等を推進することとした。

## 国土交通省、建設産業人材確保・育成推進協議会

# 平成23年度優秀施工者、建設産業人材確保・育成対策顕彰

国土交通省は9月15日、東京都・メルパルクホールを会場に平成23年度優秀施工者、建設産業人材確保・育成対策顕彰式典を開催し、受賞者の栄誉を讃えた。

### 建設マスター 401人に栄誉 会員企業から3名受賞

平成23年度優秀施工者国土交通大臣顕彰(建設マスター)においては401名が受賞し、その栄誉が讃えられた。

同顕彰は優秀な技術・技能を持ち、後進の指導・育成等に多大な貢献をした功績を讃えるもので、受賞者401名の中には秋田県から7名、うち、会員企業の従業員3名が受賞した。

#### [会員企業受賞者]

榎 清英(むつみ造園土株式会社・秋田市)  
柏木茂成(株式会社 寒 風・男鹿市)  
田村伸男(田中建設株式会社・三種町)

### 建設産業人材確保・育成対策顕彰 (株)菅与組、(株)佐藤庫組が受賞

建設産業人材確保・育成対策顕彰では人材対策において優秀と認められる企業7社が受賞した。(国土交通大臣顕彰3社、土地・建設産業局長顕彰4社)

同顕彰は建設産業における人材の確保・育成等の推進を目的とした建設産業人材確保・育成推進活動の一環として建設業に従事する労働者に係る先進的で特色のある人材対策のうち、人材の活用・育成・定着や雇用労働条件の改善への取組を通じて、労働生産性の向上、労働者の福利厚生改善等の面で特に功績がある企業を讃えるもので、本会会員から株式会社 菅与組(畠山順太郎社長・潟上市)と株式会社 佐藤庫組(佐藤昌郁社長・北秋田市)が受賞した。

#### [受賞会員企業]

国土交通大臣顕彰 株式会社 菅 与 組  
土地・建設産業局長顕彰 株式会社 佐藤庫組



## 健康管理事業「メンタルヘルス講習会」を開催

### 職場におけるメンタルヘルスケアを学ぶ

秋田県建設業協会(村岡淑郎会長)は、県内3会場においてメンタルヘルス講習会を開催し、講習会には会員企業の事業主や役員、総務担当者、雇用管理責任者などが参加した。

同講習会はメンタル不全になる労働者が増加傾向にある中、職場に存在するストレス要因は労働者自身では取り除けないものもあり、事業管理者によるメンタルヘルスケアの積極的な理解と推進が求められていることを踏まえ、建設労働者の雇用促進・労働福祉の充実のため健康管理事業として実施するもので、本年度新規の取り組みとなる。

講習会は右記の3会場で行われ、労働者が抱えるストレスの現状や要因、精神障害などの労災認定数、メンタルヘルスの具体的な進め方について講演が行われた。



[開催日時・会場・講師]

#### ◆**東北地区**(参加人数18名)

日時 平成23年9月9日(金)13:30~15:30

場所 北秋田建設業会館・会議室(北秋田市)

講義 **「職場のメンタルヘルスについて」**

講師 労働者健康福祉機構 秋田産業保健推進連絡事務所  
メンタルヘルス対策支援センター 関 雅幸氏

#### ◆**中央地区**(参加人数25名)

日時 平成23年9月12日(月)13:30~15:30

場所 ルポールみずほ(秋田市)

講義 **「職場におけるメンタルヘルス(心の健康)対策」**

講師 (社)日本産業カウンセラー協会東北支部  
秋田県運営部 部長 阿部洋子氏

#### ◆**県南地区**(参加人数18名)

日時 平成23年9月14日(水)13:30~15:30

場所 平鹿建設業会館・会議室(横手市)

講義 テーマ **「職場のメンタルヘルスについて」**

講師 労働者健康福祉機構 秋田産業保健推進連絡事務所  
メンタルヘルス対策支援センター 関 雅幸氏

# 秋田水風景

文と写真/加藤隆悦

フリーカメラマン兼フリーライター  
取材・執筆歴/旅の手帖、WoodyLife、ベンチャー・リンク、郷、ある他  
海外取材歴/ドイツ、アメリカ、ブラジル  
写真塾・写楽 主宰/写真教室、撮影ツアー企画等

Vol.27

## 小安峡

【おやすきょう】  
湯沢市皆瀬



## 建退共制度のご案内

この制度は、建設現場で働く方々のために、「中小企業退職金共済法」という法律により国が作った退職金制度です。

事業主の方は、現場で働く方々の共済手帳を働いた日数に応じて、掛金となる共済証紙を貼り、その労働者が建設業界で働くことをやめたときに、建退共から退職金を支払うといういわば業界全体での退職金制度です。

### 国の制度 5 つの特長

#### 1. 国の制度なので安全確実かつ簡単

退職金は国で定められた基準により計算して確実に支払われます。手続きはわざわざ簡単です。

#### 2. 退職金は企業間を通算して計算

退職金は、A企業からB企業にかわっても、それぞれの期間が全部通算して計算されます。

#### 3. 国が掛金の一部を補助

新たに加入した労働者（被共催者）については、国が掛金の一部（初回交付の手帳の50日分）を補助します。

#### 4. 掛金は損金扱い

掛金は、税法上金額について、法人では損金、個人企業では必要経費として扱われます。  
(法人税法施行令第135条第1号、所得税法施行令第64条第2項)  
(注)資本金または出資金が1億円を超える法人の法人事業税には、平成16年4月1日以降に開始する事業年度分から、外形標準課税が導入されますので、ご留意ください。



#### 5. 経営事項審査で加点

公共工事の入札に参加するための経審において、制度に加入し履行している場合には、加点評価されます。

### (財)建設業福祉共済団から

※上記の記事はホームページに掲載されています。

<http://www.a-kenkyo.or.jp>

私事になるが先日東京で開催されたGoogle(グーグル)のイベントに参加してきた。といえば、言わずと知れたインターネット検索エンジンの最大手であり、多くの人が日常的にお世話になっている。そして、検索エンジンのみならず、IT技術を駆使した様々なサービスをネットユーザーに提供している。自分の撮った写真をネット上で公開するときに、知らぬ間にのサービスを利用して、しまっている「こともある」。

過日、私のブログを訪れてくれた見ず知らずの方がおられて、どのような経路で私のブログを知ったのか逆に通って見たのだが、それはつまりこういうことだった。私が撮った小安峡の写真をPanoramioという写真共有サービスでネット上に公開している。それがEarthというもう一つのサービスの経路で、ウイキペディアというネット上の百科事典の「小安峡」の項目で挿絵として利用されている「こともある」。

更に調べてみると、私の小安峡の写真は、ポーランド語版のウイキペディアでも日本の国定公園を解説するページで使われていた。撮った本人も気づかぬうちに、非常に多くの人の目に触れていたようなのだ。

こういう仕組みを逆手に取ると、多額の広告料とかパンフレットの印刷代などかけなくても、とても効率よく観光情報などの発信ができておかないと、いよいよ時代から取り残されてしまいそうだ。どんなライフスタイル、どんな業種でも、ネットの威力は軽視できない。

さあ、いよいよ東北は紅葉シーズン。いい写真をたくさん撮って、どんどんネット上で公開していかないと。

## 「あ！」

菅 禮子

思わず「あ！」と声を出したくなるような失敗の思い出は、どなたにも一つ二つはあるのではなからうか……それが衆人環視の中でそれも自分の手落ちではなく、他人の不注意に因るとなると、多少の腹立たしさを交えて「あ！」と叫びたくなるのだ。

朝鮮半島は韓国の首都ソウル——その頃は京城と呼称されていた地の師範学校に入学したのは私が十三歳の時だった。入学間もなく休憩時間にFという体育の教官が教室にやって来た。

F先生は課外活動の体操クラブ入部の勧誘に来られたのだ。

「体操をやると身体の線が綺麗になるぞ！アタマもよくなる」と先生は宣伝された。

体操が頭脳にどう作用するのか疑問だったが、小学校時代から運動神経は他人よりある方だったので、早速入部した。

体操クラブの種目は、第三体操と言われる第一・第二より優美な動きを伴う徒手体操と、他に鉄棒、跳び箱の三種目だった。(現在のような平均台演技はなかった。)

毎日、放課後あたりが昏くなるまで、練習をさせられた。ある日F先生が職員会議に出席のため不在のことがあった。上級生の判断で、練習を早々に切り上げて全員下校した。期末テストが明後日から始まるという日だったのだ。

翌日、上級生五人がF先生に呼び出された。F先生は生徒たちを教官室のど真ん中に横一列に立たせ、怒号と共に鞭でピシピシとそれぞれの脚を打ち据えた。その峻烈さは今思うと世界選手権で優勝した日本女子バレーチームの大松監督をも凌駕するものだった。F先生にはオール半島を制覇し、本土の“明治神宮女子中等陸上競技大会”の体操選手権の出場権を得るといふ悲願があったのだ。

そしてたしかに出場権を手中にはしたのだが、時あたかも太平洋戦争の真只中、本土と半島との朝鮮海峡には、敵の潜水艦が出没し、釜山・下関間の連絡船崑崙丸が魚雷攻撃を受け沈没するという事件があって、明治神宮大会出場は中止となったのだ。(昭和18年)

ところで「あ！」と声を出したくなる話。——忘れもしない昭和十六年秋の運動会——に体操部の演技を公開することになった。二年生五名、一年生五名、半袖の白い運動上衣にブルマース、紺の鉢巻といったいでたちで体操、鉄棒と順調に進んでいよいよ最後の種目、跳び箱になった。クラブの中で

も一番チビの私が先頭を切って跳ぶ。跳び方は仰向け横跳び越し。一番手として颯爽踏み出しかけて脚がピタと止まった。いつも七段重ねの高さなのに、運動会準備委員の手で据えられているそれはたった一段しかない。「違う、いつもの高さが全然違う！」私は思わず振り向いて背後に居並ぶ仲間たちに言った。仲間たちも確認して当惑顔である。

「何をしている！ 早く跳ばんか！」どこにいるのかF先生の太いだみ声が聞こえた。正面に張られたテントの中には校長をはじめ教官たちが机を前に椅子に腰掛けてズラリと並んでいる。F先生は？眼で探したが、姿が見えない。私は観念した。というより、混乱した頭の中でこの期に当たってどうすべきか、考えもまとまらぬまま、斜め横から助走をかけて跳び箱の上に片手をつき、思い切り仰向けになって両脚を揃えて宙に突き上げた。次の瞬間、天地がひっくり返った。私はその低い跳び箱からでんぐり返って、地面にたたきつけられたのである。ドーッという運動場の空気をゆるがすような哄笑のどよめきが、周囲に居並ぶ千名の生徒たちから起こった。砂だらけになった私はやっと起き上がって、仲間たちの最後尾に並んだが、後につづく者たちも、私のように転がり落ちはしなかったが、恐る恐るというかなんともかっこうのよくない跳び方をした。演技の終り頃になって、ようやく気付いたF先生に叱咤されて、準備委員たちが七段重ねの跳び箱をテントの後ろから運び出して来たが、時すでに遅し、全員の演技は終わっていた。わが光輝ある京城女子師範体操クラブのデモンストレーションはなんとも後味の悪いフィナーレで終わった。

考えてもみられよ、七段と一段の落差を——

一段重ねの跳び箱の上で、ぶざまな姿態を満場の中でさらした私の無念さは今以て胸底に澱んでいる。あの時F先生の傍に駆けて行って「跳び箱の高さが違います」となぜ言えなかったのか？先生の姿が見つからなかったのだ。……のちに上級生たちから聞かされた秘かな話によると、あの日先生は前日に飲んだのか、お酒の匂いをプンプンさせて、そのためにテントの中に入らず、ずっと離れた所に立って演技を見守っていたとか……そう聞かされても私は先生を恨む気持ちにはならなかった。先生がいなくとも、準備係の所へ行って、「跳び箱が違っている(一段重ねは障害物競争用の物だった。）」と言って取り替えさせれば、時間はオーバーしても、アクシデントは起こらなかったろう。十三歳の少女には、そんな才覚がつかなかった。

時折、ふとその思い出が胸中に顔を出すたび私はその稚さもふくめて「あ！」と叫びたくなるのだ。苦笑いの表情で以て——。